ボランティア情報
2022 no 547
社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター

発災とともに駆けつけ、協働で支援し、被災者に寄り添う
～災害ボランティア・NPOの先達紹介～

各地で災害が発災した際、いち早く被災地に駆けつけ、災害ボランティアセンターや社協と連携・協働を進め、被災者への支援を行うボランティア・NPOの活動を紹介します。

第9回

公益財団法人 日本YMCA同盟

ホームページ：https://www.ymcajapan.org/　Facebook：https://www.facebook.com/japanymcaofficial/

田口 努（たぐち つとむ）　日本YMCA同盟 代表理事・総主事
1956年福島県いわき市生まれ。東北福祉大学在学中に、仙台YMCAで野外活動キャンプリーダー、障害児の施設でのワークキャンプの運営などを経験する。1979年に横浜YMCAに入職し、現在に至る

日本のYMCAによる災害時の支援活動

YMCA（Young Men's Christian Association／キリスト教青年会）は、1844年にイギリスで生まれアジアや中東、アフリカ、南米など世界中に広がっていき、現在では世界120の国と地域で6,500万人が活動する世界最大規模の非営利団体です。日本のYMCAは1880年に東京で始まり、現在は35都市、200を超える拠点で14万人が参加し、青少年育成事業を始め、自らの学びや健康、社会課題の解決のためのさまざまな活動を行っています。日本YMCAは、新型コロナウイルス感染症による世界的パンデミックの進行や、ロシア・ウクライナ危機といった厳しい状況が続くなか、「日本YMCA中期計画（2021-2023）」で5つの柱を打ち出し、回復をめざす社会のなかでの“灯火となる”活動を展開しています。

日本のYMCAはその長い歴史のなかで、古くは1923（大正12）年関東大震災や1959（昭和34）年伊勢湾台風で、被災地の復興に携わってきました。国内外で災害が起きた際には、募金活動やスタッフ派遣などを行って被災地を支援します。また、災害直後の緊急支援だけでなく、避難所でのレクリエーション活動や、コミュニティづくり、子どものメンタルケアなど、中長期的な支援活動も展開しています。

1. **Positive well-being**
   Positive well-beingを提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。
2. **Youth Empowerment**
   若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。
3. **Technology for social inclusion&diversity**
   インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。
4. **Partnership**
   地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。
5. **Change Agent**
   未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agent（Global Servant）の育成に注力する

日本YMCA中期計画（2021-2023）で目指す、5つの柱

行政や他団体と連携し避難所運営をサポート

令和2（2020）年7月豪雨では、熊本YMCAが熊本県ならびに球磨郡球磨村の要請を受け、旧多良木高校避難所（球磨郡多良木町）の運営を行いました。避難所開設当初は約200名の避難住民と共同生活を送るなか、コロナ禍で初の避難所運営支援として、事前にPCR検査を行うなど新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じたうえで、全国のYMCAや協力団体から支援スタッフが入り運営にあたりました。また、一般社団法人ピースボート災害支援センター（本誌2022年11月号で紹介）や、社会福祉法人賛育会と協働して避難所運営を行いました。

旧多良木高校避難所運営は、7月9日から10月31日まで約3か月間と長期間にわたり行われていました。避難所で長期の生活を送ることは被災したショックに加え、肉体的にも精神的にもダメージが蓄積され、多くの方が苦労をかかえます。そうした避難住民へのサポートとして、少しでも“普段の当たり前の暮らし”に近づけるために、床に寝る生活をやめ、個人のプライバシーを確保し、温かいご飯が食べられる等の環境づくり等の支援を行います。また、避難所生活では“ある程度自分たちで避難所内の生活環境を整えるような行動”につなげることが必要で、避難住民の自発性を促し、互いにたすけあえる雰囲気・環境づくりができるよう見守る支援を行います。その他、9月下旬に入り避難者数約140名のうち、15名の小中高生を対象にした子どもたちの居場所「キッズチーム」をつくりました。避難所は場所によって境遇も異なり、人も違います。そうした状況に合わせた適当な支援を考えながら、避難所運営を行っています。

（令和2年7月豪雨）旧多良木高校避難所で簡易ベッドの組み立て作業の様子

（令和2年7月豪雨）旧多良木高校避難所のキッズルームでの活動の様子。段ボールを使って遊びの幅を広げる

最近の主な被災地支援活動	令和2年7月豪雨（2020年）、台風15・19号（2019年）、西日本豪雨（2018年）、熊本地震（2016年）、ネパール大地震（2015年）、台風26号・伊豆大島土砂災害（2013年）、フィリピン台風30号（2013年）、東日本大震災（2011年）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル TEL.03-3581-4656 FAX.03-3581-7858
E-mail vc00000@shakyo.or.jp URL https://www.zcwvc.net/
発行人●松島 紀由 編集人●高橋 良太 制作●株式会社トライ 定価●¥110（税込）※購読料は会費に含む